

III 調查結果

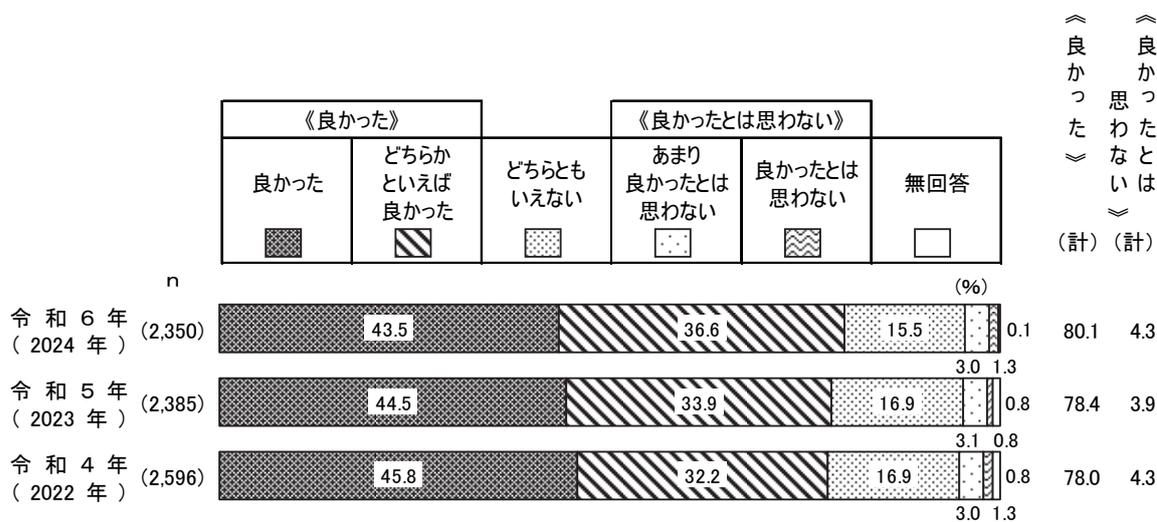
1. 定住意向

(1) 八王子市に住んで良かったと思うか

◇《良かった》が約8割

問1 あなたは、八王子市に住んで良かったと思いますか。(〇は1つだけ)

図1-1-1 八王子市に住んで良かったと思うかー全体、経年比較

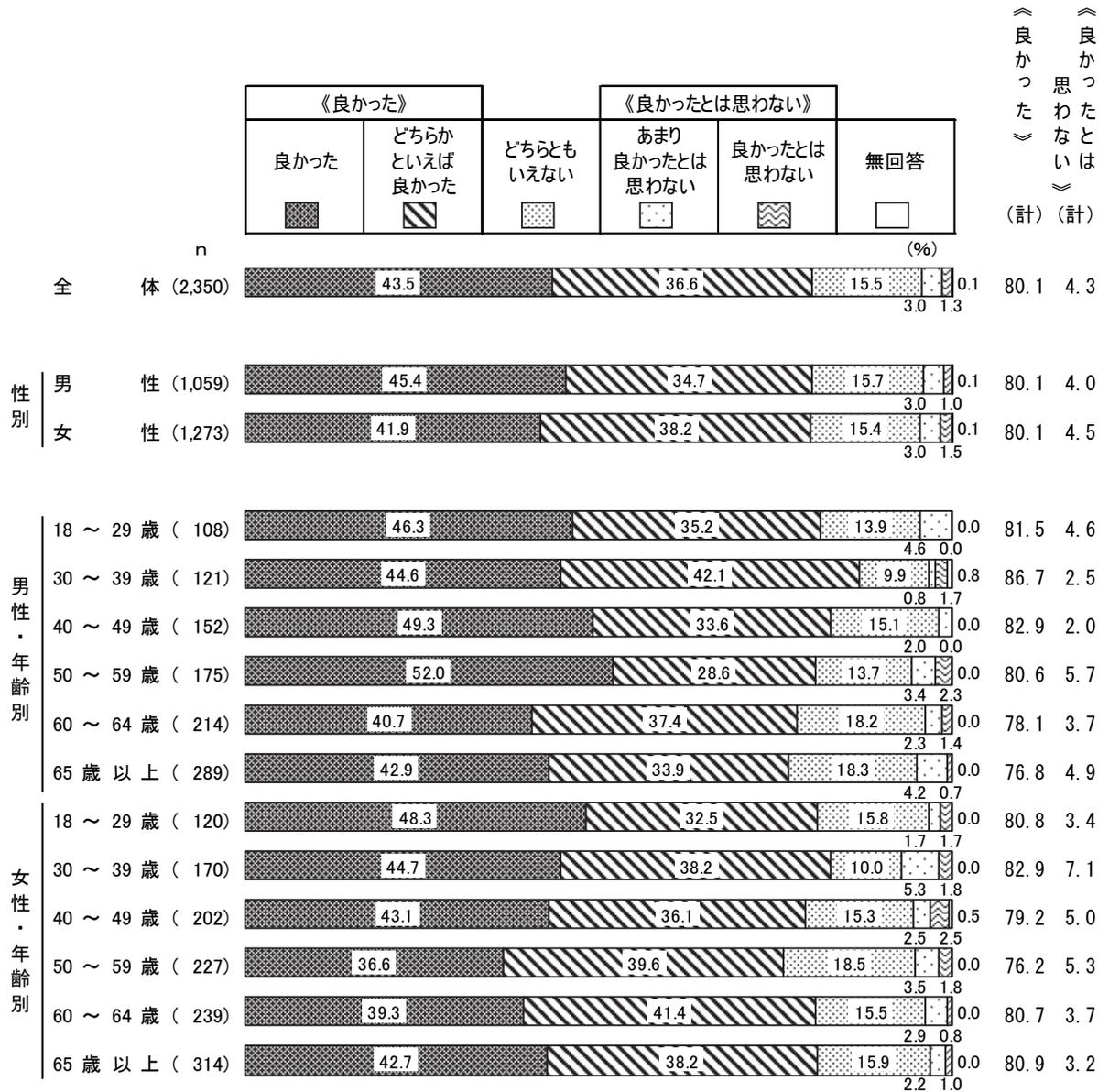


八王子市に住んで良かったと思うか聞いたところ、「良かった」(43.5%)と「どちらかといえば良かった」(36.6%)を合わせた《良かった》(80.1%)は約8割となっている。一方、「あまり良かったとは思わない」(3.0%)と「良かったとは思わない」(1.3%)を合わせた《良かったとは思わない》(4.3%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(15.5%)は1割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-1-1)

図 1-1-2 八王子市に住んで良かったと思うかー性別、性・年齢別

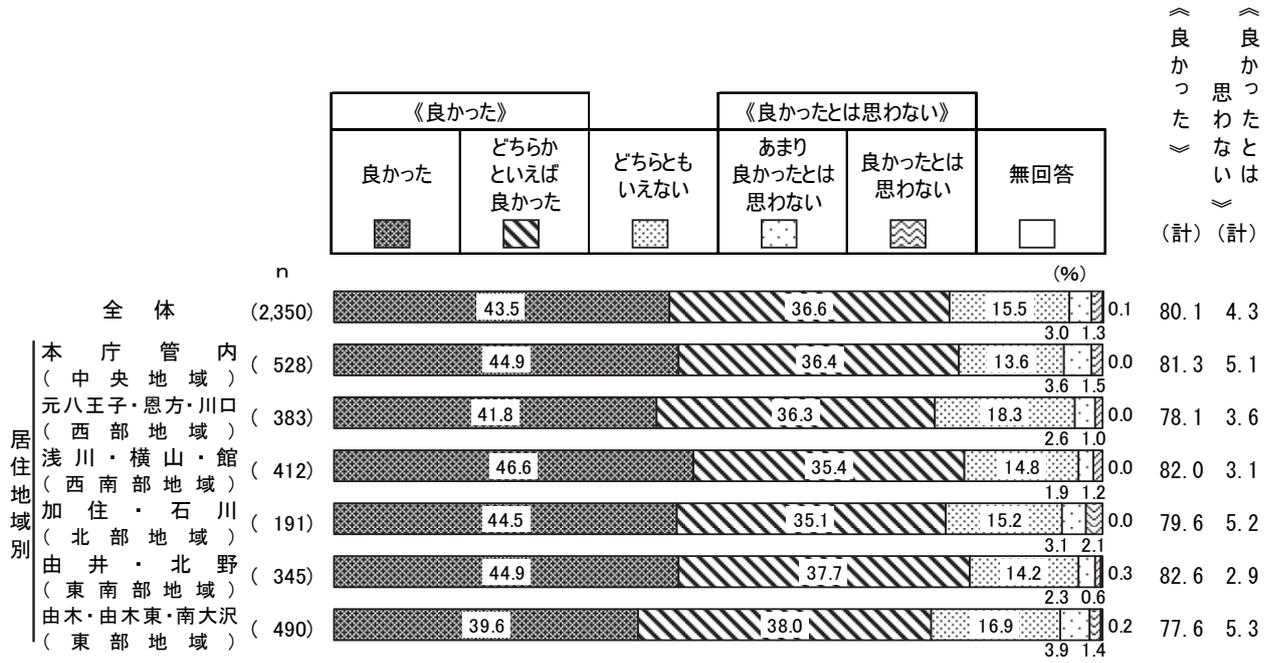


性別にみると、「良かった」は男性（45.4%）が女性（41.9%）より 3.5 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《良かった》は男性 30～39 歳（86.7%）で 9 割近くと多くなっている。

(図 1-1-2)

図 1-1-3 八王子市に住んで良かったと思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《良かった》は由井・北野（東南部地域）（82.6%）、浅川・横山・館（西南部地域）（82.0%）、本庁管内（中央地域）（81.3%）で8割強と多くなっている。

(図 1-1-3)

(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか

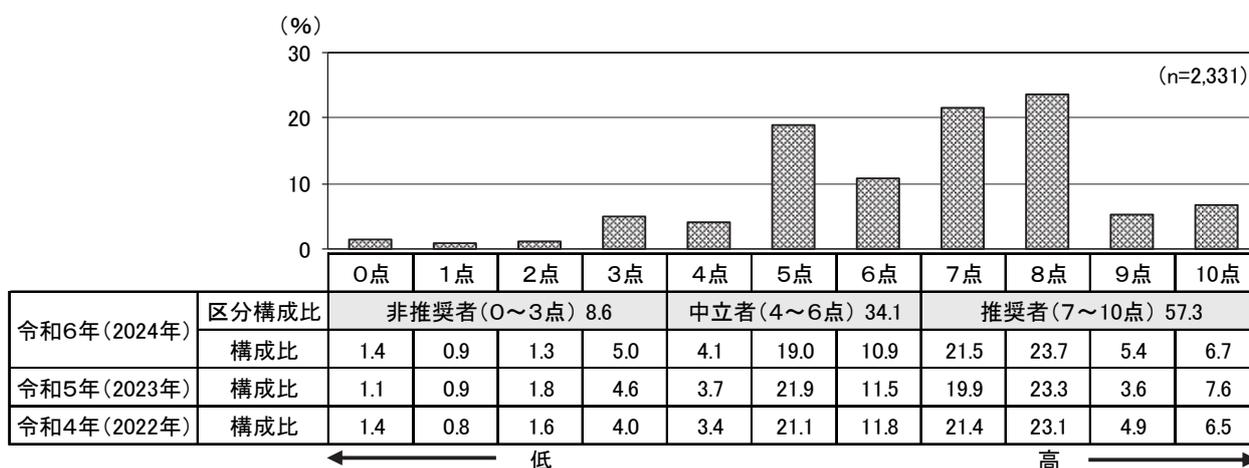
◇自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にすすめたい程度を表す【推奨意欲スコア】は、プラス48.7ポイント

問2 あなたは、自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度おすすめしたいと思いますか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでいう「まちの魅力」とは・・・

- 住みやすさ、働きやすさ、子育てしやすさ、交通や買い物の便利さ
- 学習環境、スポーツ環境
- 自然、まちなみ、まちの雰囲気
- お店、グルメ、特産品、農産物
- イベントやお祭り
- 歴史・文化
- 高尾山などの観光スポット
- 人物・企業・団体
- など、どのようなものでも構いません。

図1-2-1 まちの魅力をどの程度おすすめしたいか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 推奨意欲スコアの算出のため、無回答(19人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆推奨意欲スコア

推奨者(57.3%) - 非推奨者(8.6%) = 推奨意欲スコア(+48.7ポイント)

(注) 推奨意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・まちに対する「居住」「来訪」等を推奨する気持ちを0~10点の11段階で測定。
- ・「推奨者」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「非推奨者」(0~3点を付けた人)に区分して、「推奨者の割合-非推奨者の割合」を計算。
- ・最低-100ポイント(全員が非推奨者)から最高+100ポイント(全員が推奨者)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度すすめたいかを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《推奨者》が57.3%、4~6点を付けた《中立者》が34.1%、0~3点を付けた《非推奨者》が8.6%となっている。この結果を元に《推奨者》の割合から《非推奨者》の割合を引いた【推奨意欲スコア】は+(プラス)48.7ポイントとなる。

前回までの調査と比較すると、【推奨意欲スコア】は令和5年(2023年)(+46.0ポイント)より2.7ポイント増加している。(図1-2-1)

(3) まちのために活動したいと思うか

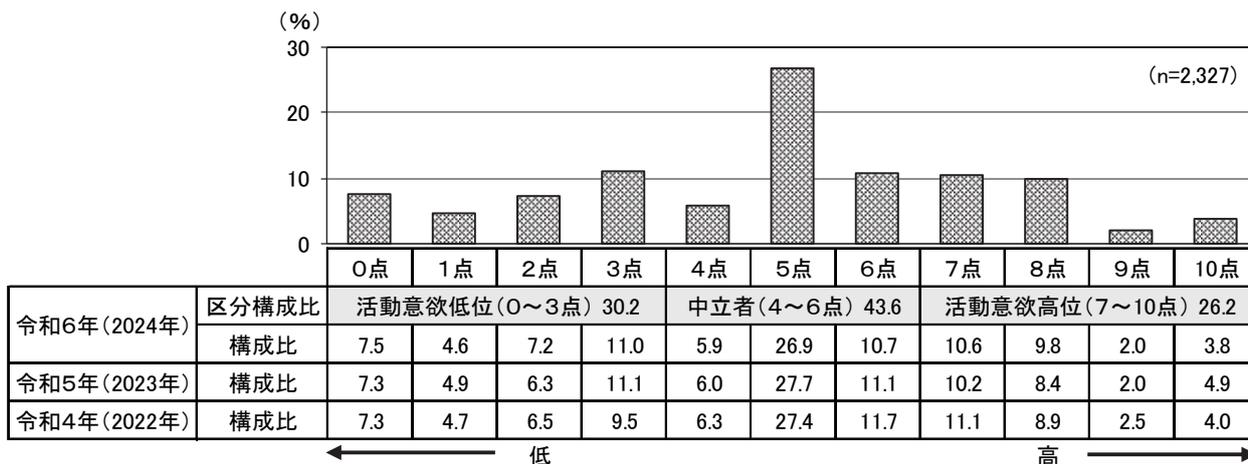
◇自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを表す【活動意欲スコア】は、マイナス4.0ポイント

問3 あなたは、自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちをお持ちですか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでいう「活動」とは・・・

- 地域のおもしろい情報や役に立つ情報の発信
 - お祭りや文化活動の担い手としての活動
 - イベントの企画・運営やサポート
 - 公園、道路、河川などの維持活動（清掃や除草など）
 - 町会・自治会、子ども会、PTAなどへの参加
 - ボランティアやNPO活動
 - 市政への意見表明や市の審議会などへの参加
- などを幅広く含みます。身近なもの、個人的なものでも構いません。

図1-3-1 まちのために活動したいと思うか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 活動意欲スコアの算出のため、無回答(23人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆活動意欲スコア

活動意欲高位(26.2%)－活動意欲低位(30.2%)＝活動意欲スコア(－4.0ポイント)

(注) 活動意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・活動への意欲を0～10点の11段階で測定。
- ・「活動意欲高位」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「活動意欲低位」(0～3点を付けた人)に区分して、「活動意欲高位の割合－活動意欲低位の割合」を計算。
- ・最低－100ポイント(全員が活動意欲低位)から最高+100ポイント(全員が活動意欲高位)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《活動意欲高位》が26.2%、4～6点を付けた《中立者》が43.6%、0～3点を付けた《活動意欲低位》が30.2%となっている。この結果を元に《活動意欲高位》の割合から《活動意欲低位》の割合を引いた【活動意欲スコア】は－（マイナス）4.0ポイントとなる。

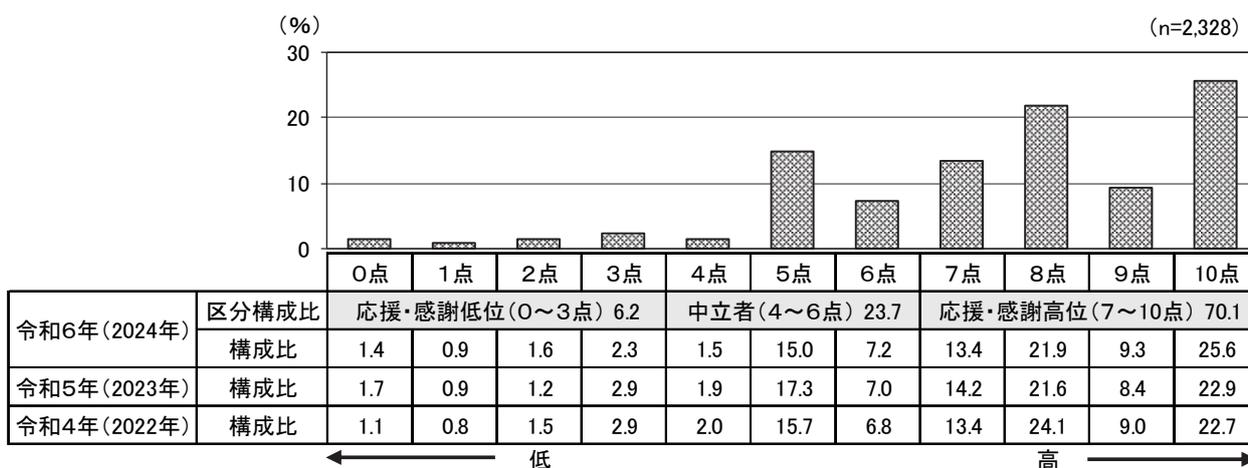
前回までの調査と比較すると、【活動意欲スコア】は令和5年（2023年）（-4.3ポイント）より0.3ポイント増加している。（図1-3-1）

(4) まちのために活動する人への応援や感謝

◇自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり感謝する気持ちの強さを表す【応援・感謝スコア】は、プラス 63.9 ポイント

問4 あなたは、問3で例示したような活動に参加している人たちに対して、応援したり感謝する気持ちはどのくらいありますか。非常にある場合を10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

図1-4-1 まちのために活動する人への応援や感謝（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 応援・感謝スコアの算出のため、無回答(22人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆ 応援・感謝スコア

応援・感謝高位(70.1%) - 応援・感謝低位(6.2%) = 応援・感謝スコア(+63.9ポイント)

(注) 応援・感謝スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・ 応援・感謝の気持ちの強さを0~10点の11段階で測定。
- ・ 「応援・感謝高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「応援・感謝低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「応援・感謝高位の割合-応援・感謝低位の割合」を計算。
- ・ 最低-100ポイント(全員が応援・感謝低位)から最高+100ポイント(全員が応援・感謝高位)までで評価。
- ・ なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《応援・感謝高位》が70.1%、4~6点を付けた《中立者》が23.7%、0~3点を付けた《応援・感謝低位》が6.2%となっている。この結果を元に《応援・感謝高位》の割合から《応援・感謝低位》の割合を引いた【応援・感謝スコア】は+(プラス)63.9ポイントとなる。

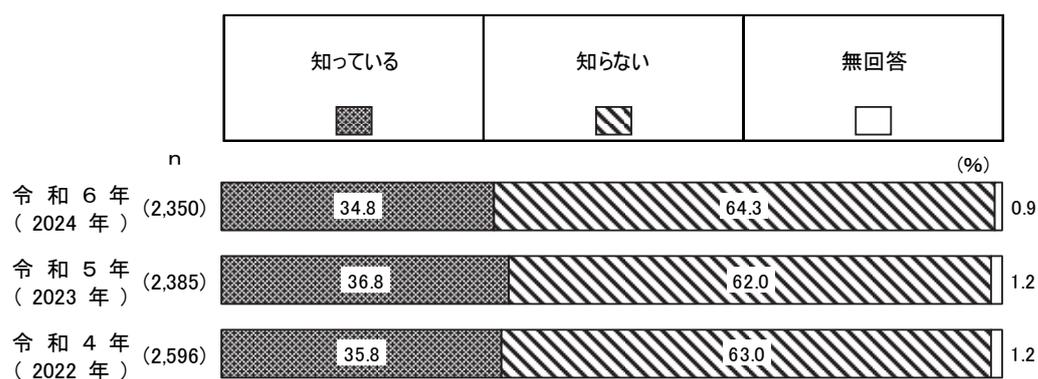
前回の調査と比較すると、【応援・感謝スコア】は令和5年(2023年)(60.3ポイント)より3.6ポイント増加している。(図1-4-1)

(5) 市のブランドメッセージの周知度

◇「知っている」が3割台半ば

問5 あなたは、市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を知っていますか。(〇は1つだけ)

図1-5-1 市のブランドメッセージの周知度－全体、経年比較



八王子市のブランドメッセージを知っているか聞いたところ、「知っている」(34.8%)は3割台半ばとなっている。一方、「知らない」(64.3%)は6割台半ばとなっている。

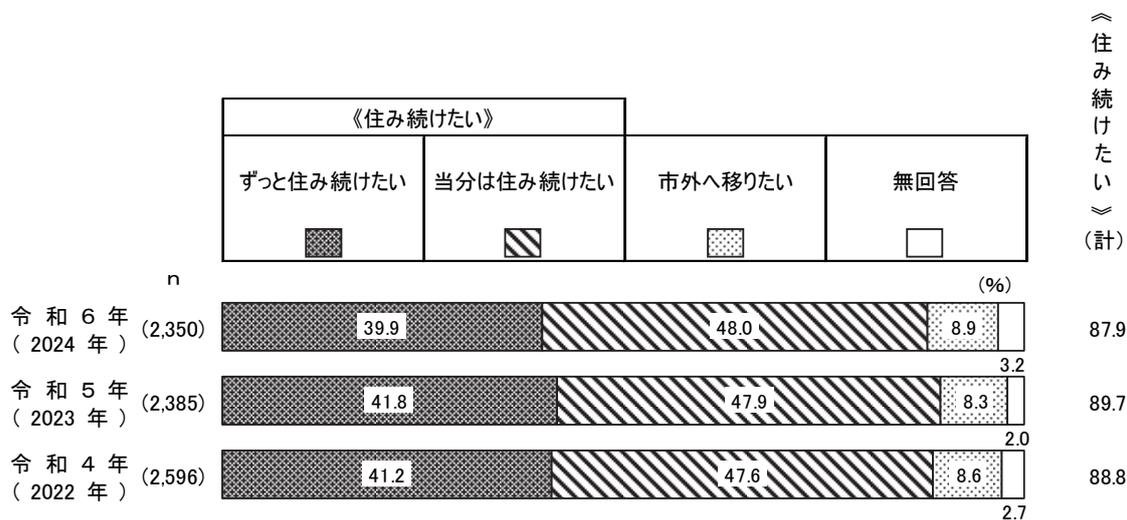
前回までの調査と比較すると、「知らない」は令和5年(2023年)(62.0%)より2.3ポイント増加している。(図1-5-1)

(6) 定住意向

◇《《住み続けたい》が9割近く

問6 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-6-1 定住意向-全体、経年比較

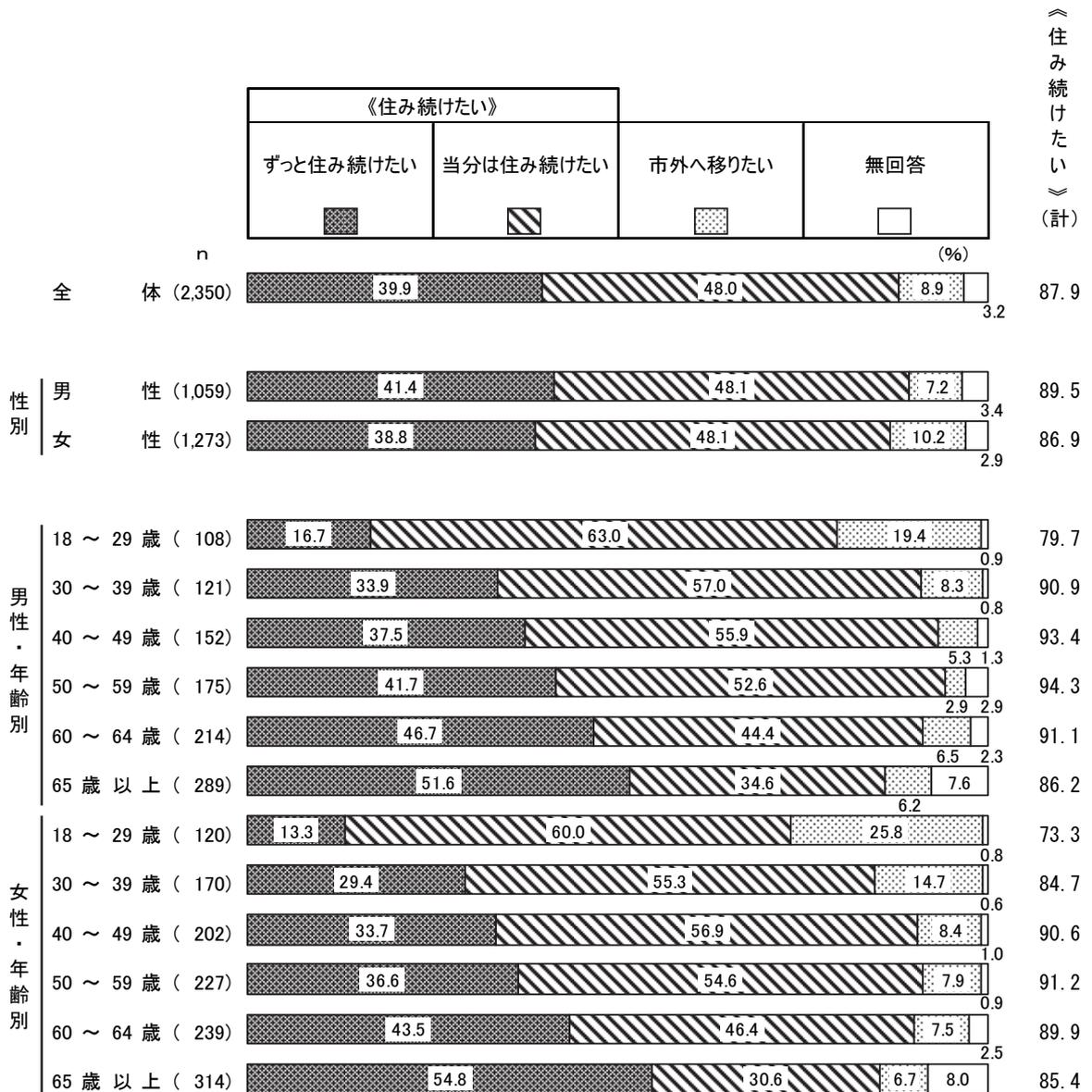


これからも八王子市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(39.9%)と「当分は住み続けたい」(48.0%)を合わせた《《住み続けたい》》(87.9%)は9割近くとなっている。一方、「市外へ移りたい」(8.9%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-6-1)

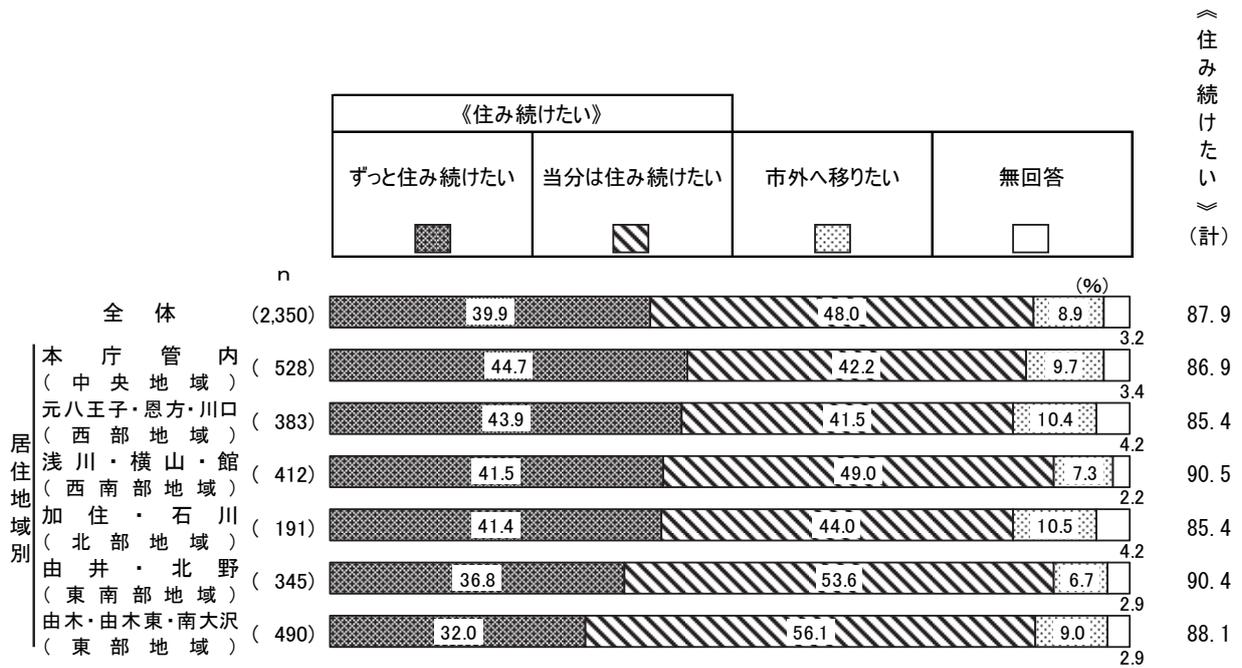
図 1-6-2 定住意向—性別、性・年齢別



性別にみると、「《住み続けたい》」は男性（89.5%）が女性（86.9%）より 2.6 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「《住み続けたい》」は男性 50～59 歳（94.3%）で 9 割台半ばと多くなっている。「ずっと住み続けたい」は女性 65 歳以上（54.8%）で 5 割台半ばと多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は女性 18～29 歳（25.8%）で 2 割台半ばとなっている。（図 1-6-2）

図1-6-3 定住意向-居住地域別



居住地域別にみると、《住み続けたい》は浅川・横山・館（西南部地域）（90.5%）、由井・北野（東南部地域）（90.4%）で約9割と多くなっている。（図1-6-3）

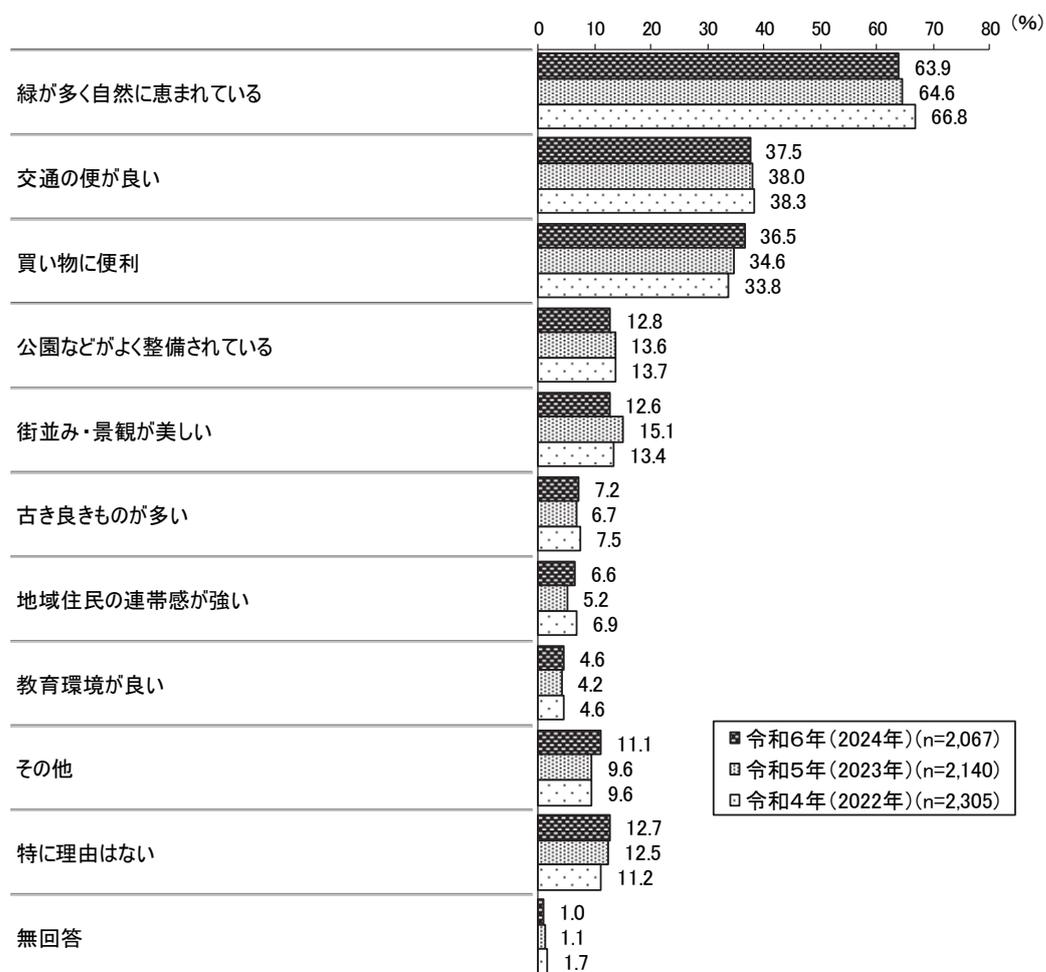
(7) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が6割強

(問6で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方へ)

問6-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

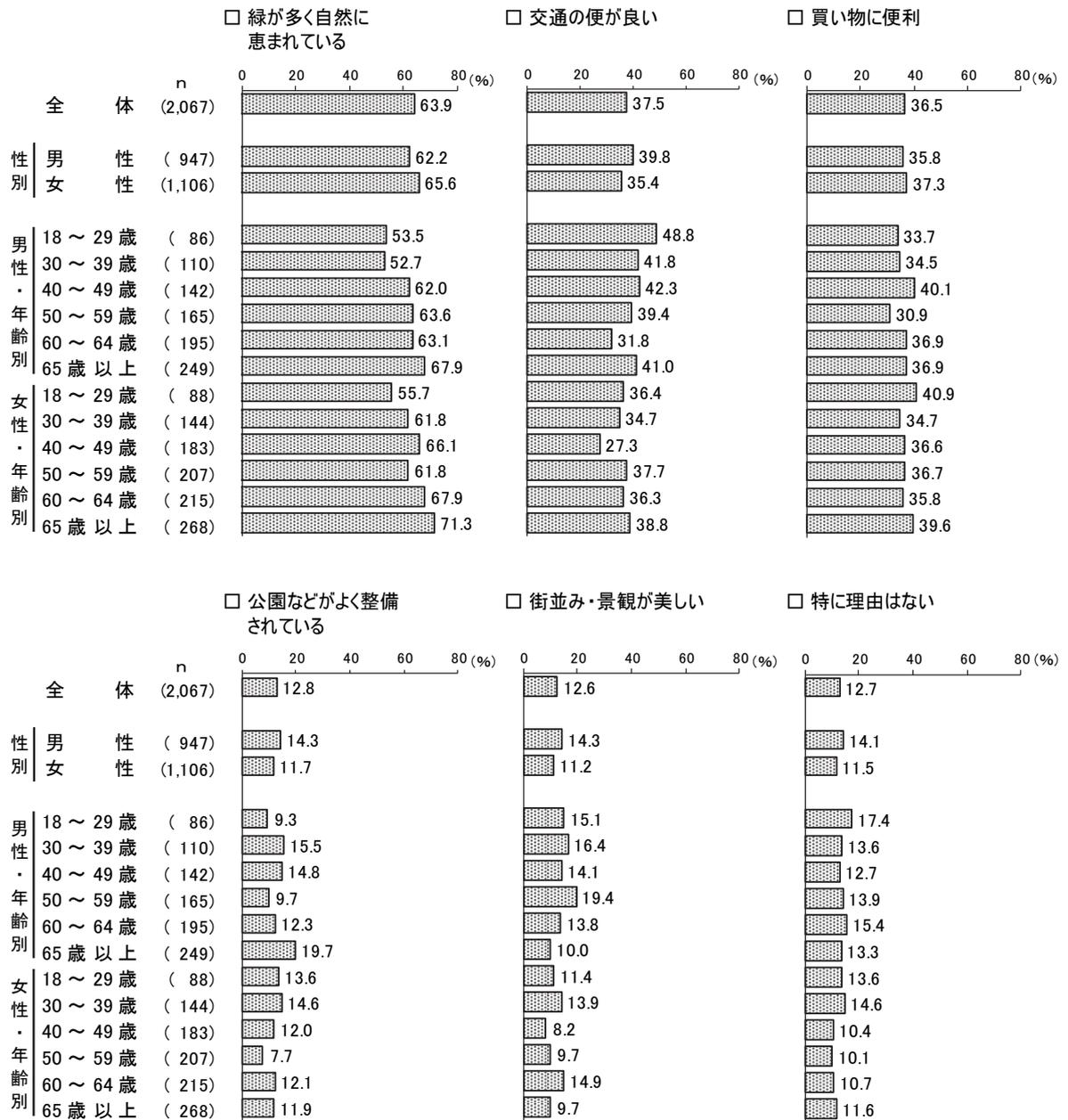
図1-7-1 住み続けたい理由-全体、経年比較



八王子市に「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した2,067人に、その理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(63.9%)が6割強で最も多くなっている。次いで「交通の便が良い」(37.5%)、「買い物に便利」(36.5%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「街並み・景観が美しい」は令和5年(2023年)(15.1%)より2.5ポイント減少している。(図1-7-1)

図 1-7-2 住み続けたい理由—性別、性・年齢別（上位 5 項目 + 「特に理由はない」）

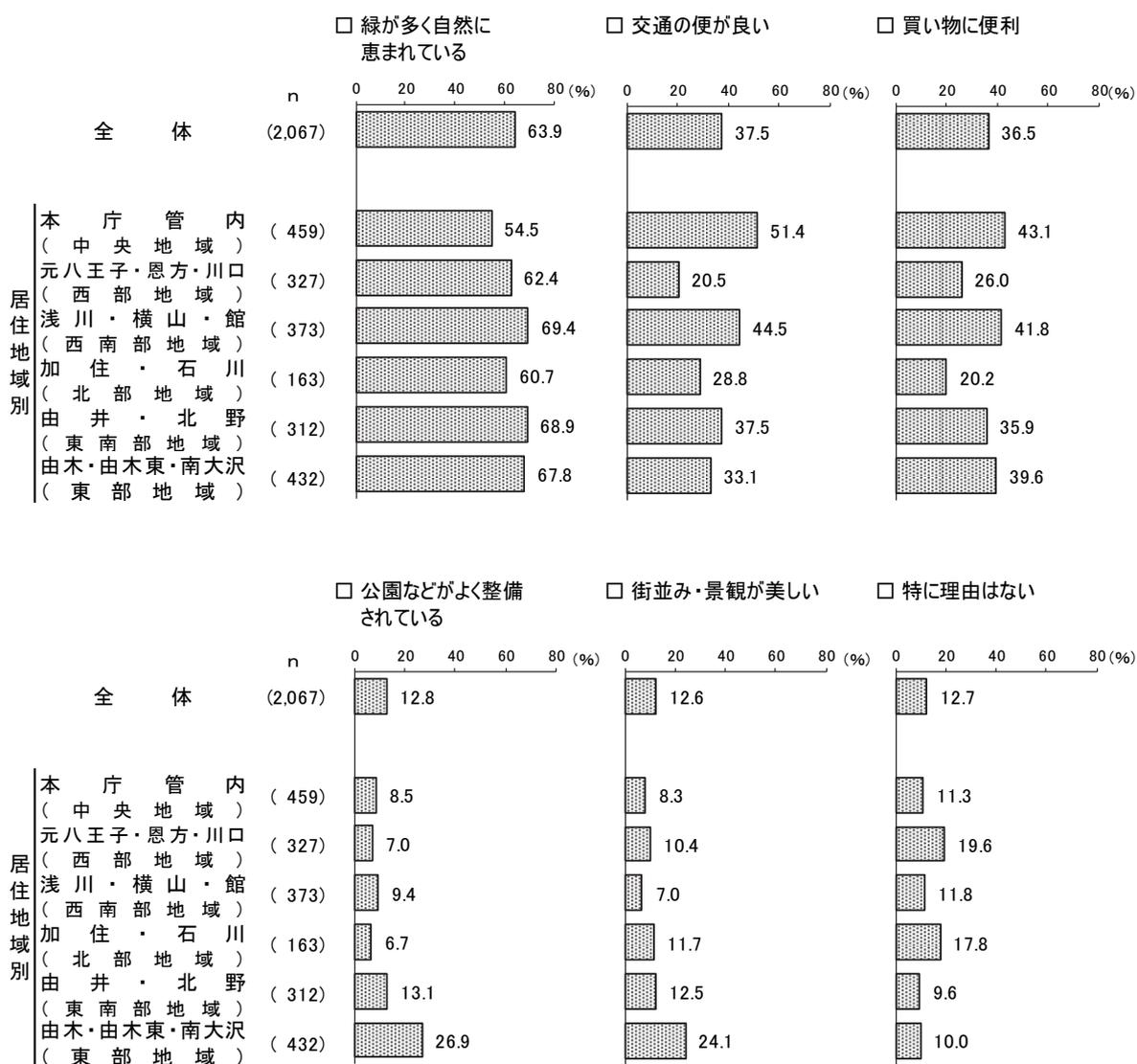


性別にみると、「交通の便が良い」は男性（39.8%）が女性（35.4%）より 4.4 ポイント、「街並み・景観が美しい」は男性（14.3%）が女性（11.2%）より 3.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「緑が多く自然に恵まれている」は女性（65.6%）が男性（62.2%）より 3.4 ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性 65 歳以上（71.3%）で 7 割強と多くなっている。「交通の便が良い」は男性 18～29 歳（48.8%）で 5 割近くと多くなっている。「買い物に便利」は女性 18～29 歳（40.9%）、男性 40～49 歳（40.1%）で約 4 割と多くなっている。

(図 1-7-2)

図1-7-3 住み続けたい理由—居住地域別（上位5項目+「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は浅川・横山・館（西南部地域）（69.4%）で7割弱と多くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）（51.4%）で5割強と多くなっている。「買い物に便利」は本庁管内（中央地域）（43.1%）、浅川・横山・館（西南部地域）（41.8%）で4割強と多くなっている。（図1-7-3）

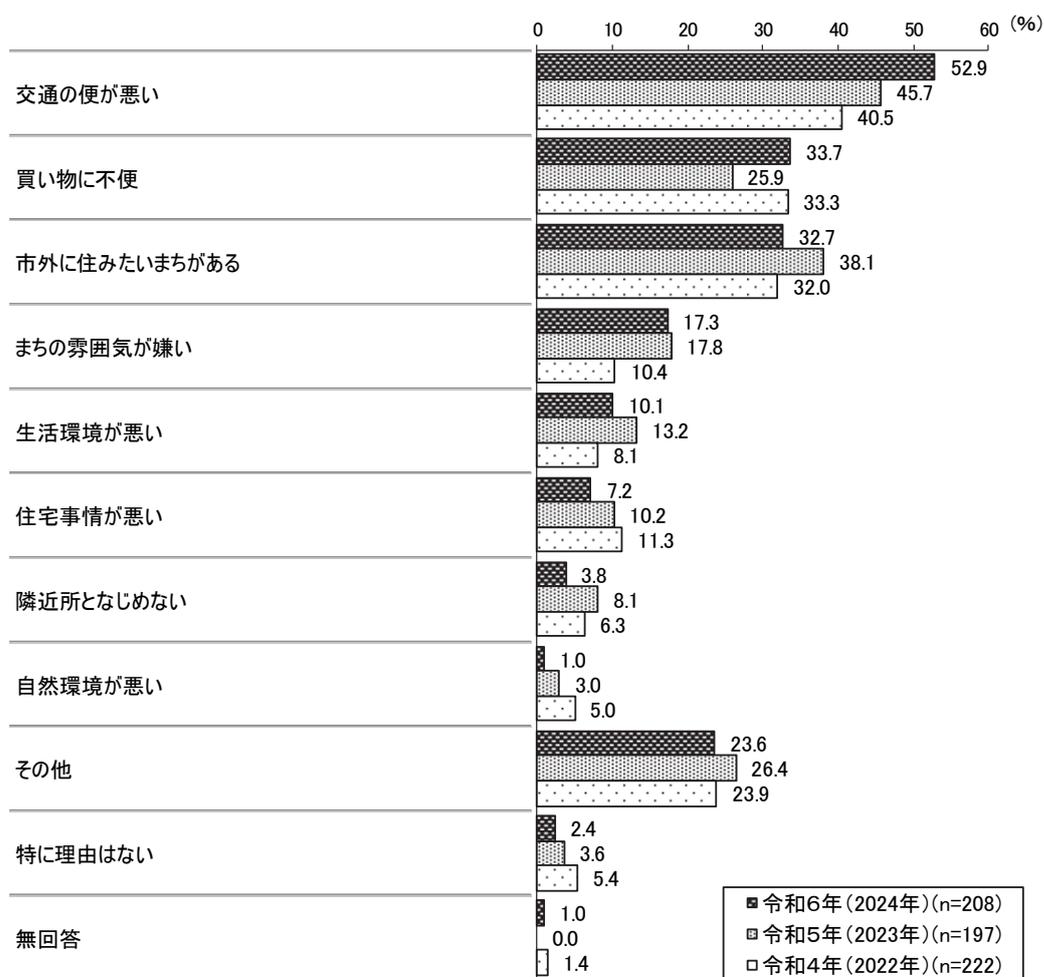
(8) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が5割強

(問6で「市外へ移りたい」とお答えの方へ)

問6-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

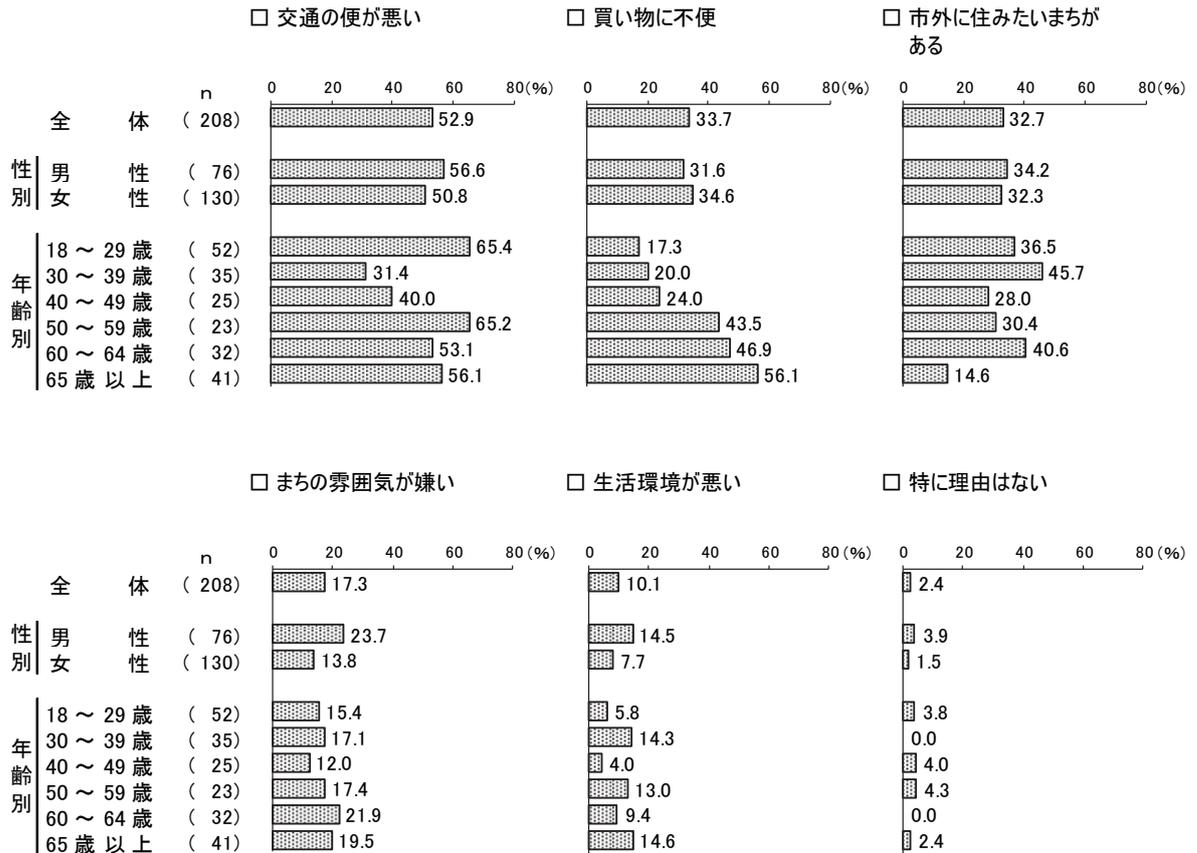
図1-8-1 市外へ移りたい理由—全体、経年比較



八王子市から「市外へ移りたい」と回答した 208 人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(52.9%) が5割強で最も多くなっている。次いで「買い物に不便」(33.7%)、「市外に住みたいまちがある」(32.7%) などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「買い物に不便」は令和5年(2023年)(25.9%)より7.8ポイント、「交通の便が悪い」は令和5年(2023年)(45.7%)より7.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「市外に住みたいまちがある」は令和5年(2023年)(38.1%)より5.4ポイント減少している。(図1-8-1)

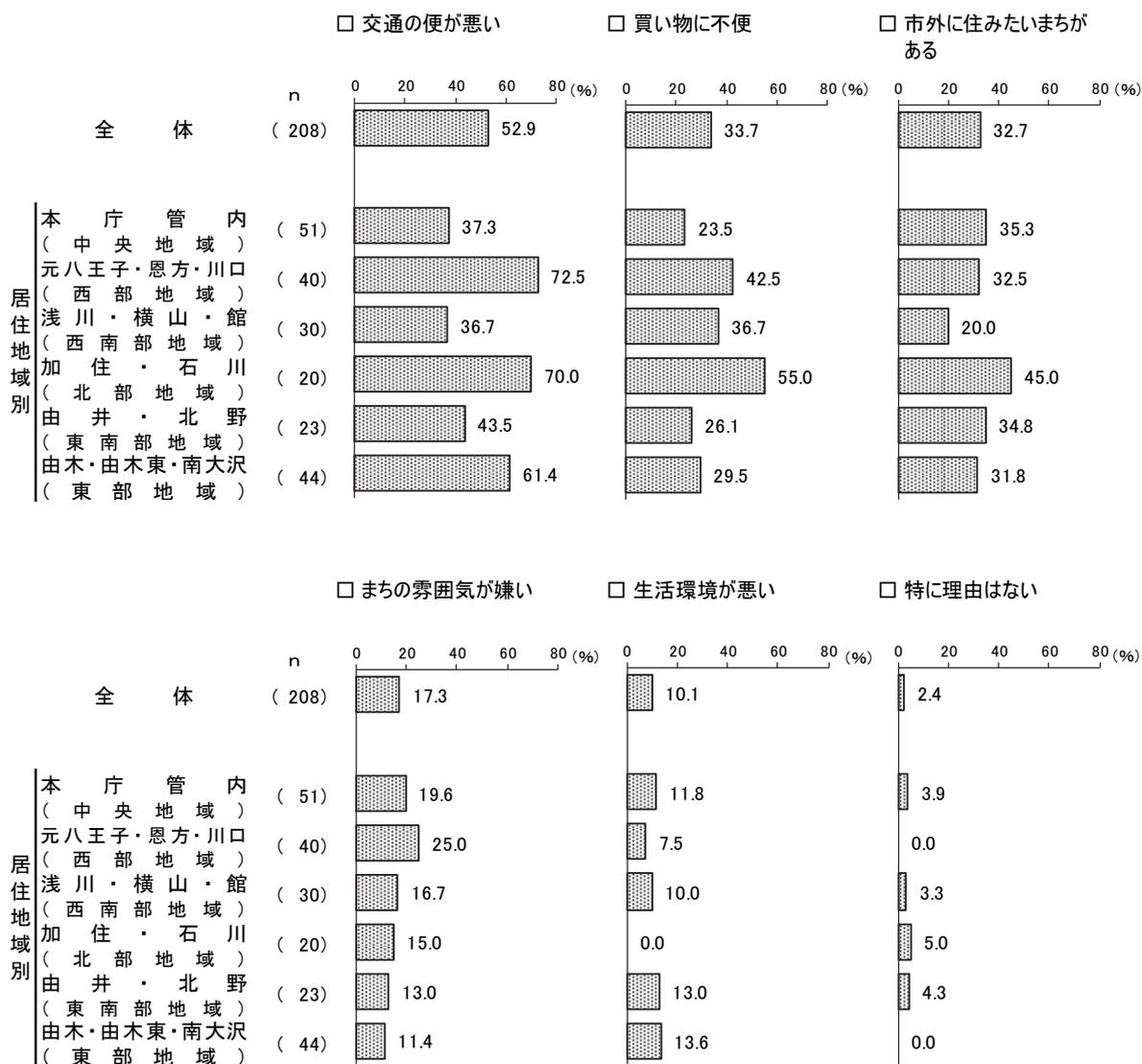
図 1-8-2 市外へ移りたい理由—性別、年齢別（上位 5 項目＋「特に理由はない」）



性別にみると、「まちの雰囲気が嫌い」は男性（23.7%）が女性（13.8%）より 9.9 ポイント、「生活環境が悪い」は男性（14.5%）が女性（7.7%）より 6.8 ポイント、「交通の便が悪い」は男性（56.6%）が女性（50.8%）より 5.8 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は 18～29 歳（65.4%）で 6 割台半ばと多くなっている。「買い物に不便」は 65 歳以上（56.1%）で 6 割近くと多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は 30～39 歳（45.7%）で 4 割台半ばと多くなっている。（図 1-8-2）

図1-8-3 市外へ移りたい理由—居住地域別（上位5項目+「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（72.5%）で7割強と多くなっている。「買い物に不便」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（42.5%）で4割強と多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は本庁管内（中央地域）（35.3%）で3割台半ばと多くなっている。（図1-8-3）

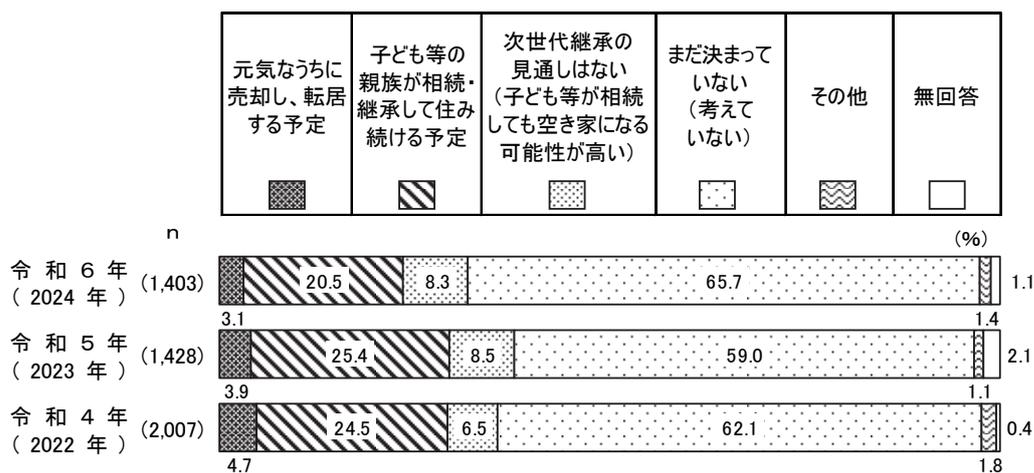
(9) 住まいの相続・継承の見通し

◇「まだ決まっていない（考えていない）」が6割台半ば

問7 あなたのお住まいについて、相続・継承の見通しはどうなっていますか。

(○は1つだけ)

図1-9-1 住まいの相続・継承の見通しー全体、経年比較



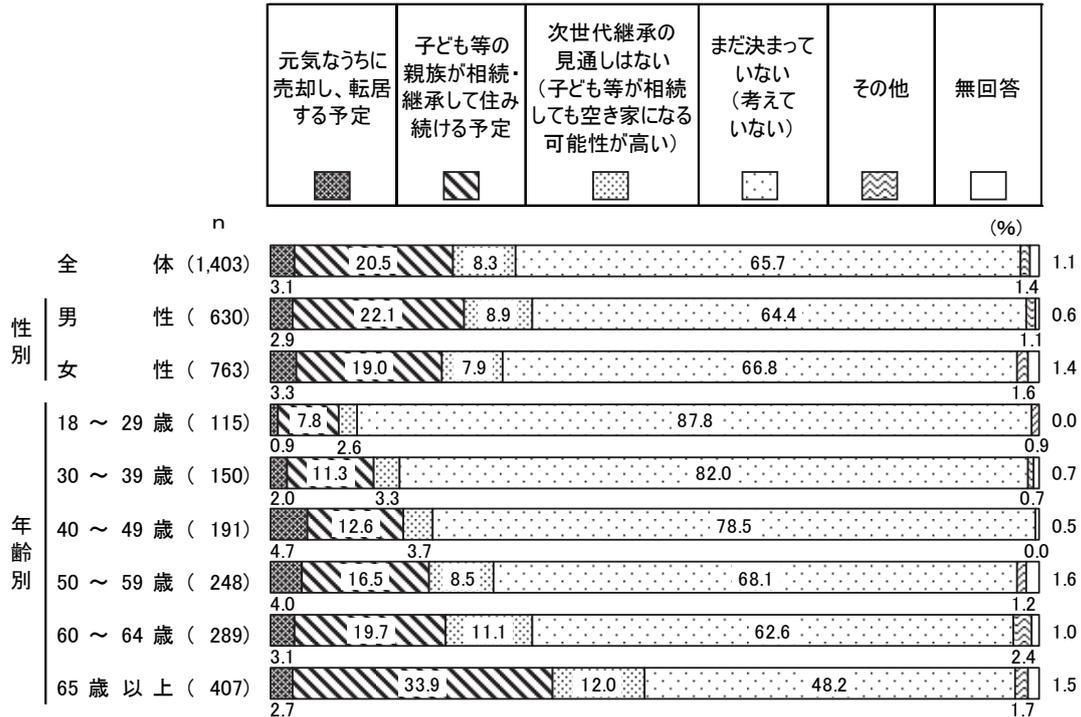
(注) この設問は令和4年(2022年)までは、持ち家の有無で「はい(配偶者、親等が所有している場合も含む)」の方を対象としていた。

(注) 令和5年(2023年)では、持ち家の有無で「戸建て(持ち家)」の方を対象としており、令和6年(2024年)では、令和5年と比較するため「戸建て(持ち家)」の方を母数として集計し掲載している。

居住形態で、「戸建て(持ち家)」と回答した1,403人の相続・継承の見通しは、「まだ決まっていない(考えていない)」(65.7%)が6割台半ばで最も多くなっている。次いで「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」(20.5%)、「次世代継承の見通しはない(子ども等が相続しても空き家になる可能性が高い)」(8.3%)、「元気なうちに売却し、転居する予定」(3.1%)の順となっている。

前回までの調査と比較すると、「まだ決まっていない(考えていない)」は令和5年(2023年)(59.0%)より6.7ポイント増加している。一方、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は令和5年(2023年)(25.4%)より4.9ポイント減少している。(図1-9-1)

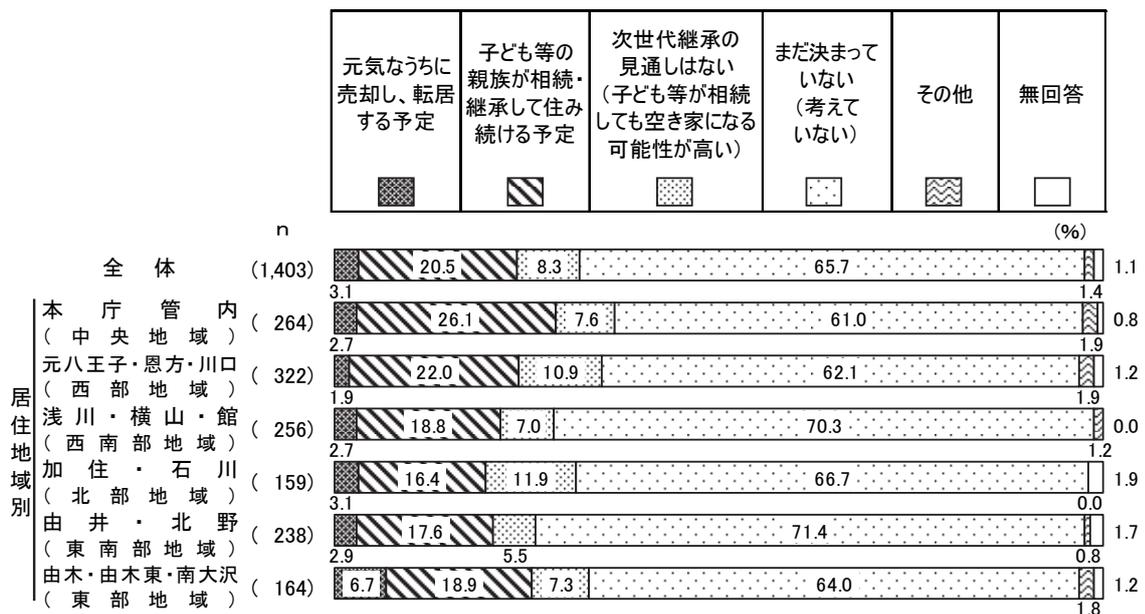
図1-9-2 住まいの相続・継承の見通し—性別、年齢別



性別にみると、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は男性(22.1%)が女性(19.0%)より3.1ポイント高くなっている。一方、「まだ決まっていない(考えていない)」は女性(66.8%)が男性(64.4%)より2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「子ども等の親族が相続・継承して住み続ける予定」は65歳以上(33.9%)で3割強と多くなっている。「まだ決まっていない(考えていない)」は18～29歳(87.8%)で9割近くと多くなっている。(図1-9-2)

図1-9-3 住まいの相続・継承の見通し—居住地域別



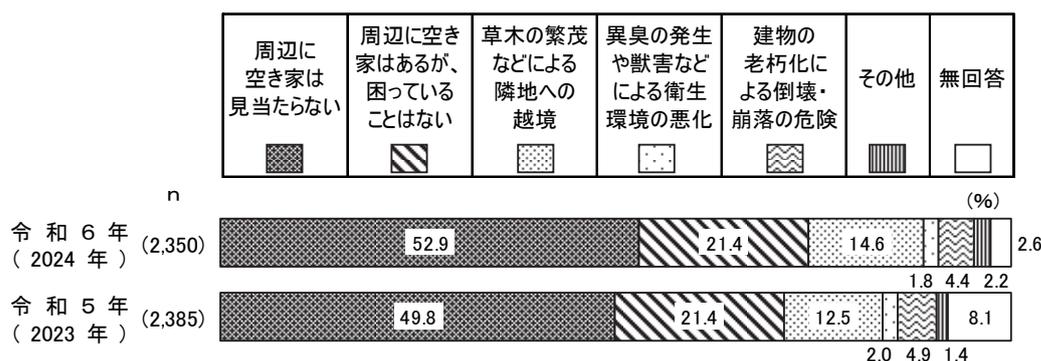
居住地域別にみると、「まだ決まっていない(考えていない)」は由井・北野(東南部地域)(71.4%)で7割強と多くなっている。(図1-9-3)

(10) 空き家で一番困っていること

◇「草木の繁茂などによる隣地への越境」が1割台半ば

問8 あなたのお住まいの地域での空き家（販売中の住宅を除く）で一番困っていることは何ですか。（○は1つだけ）

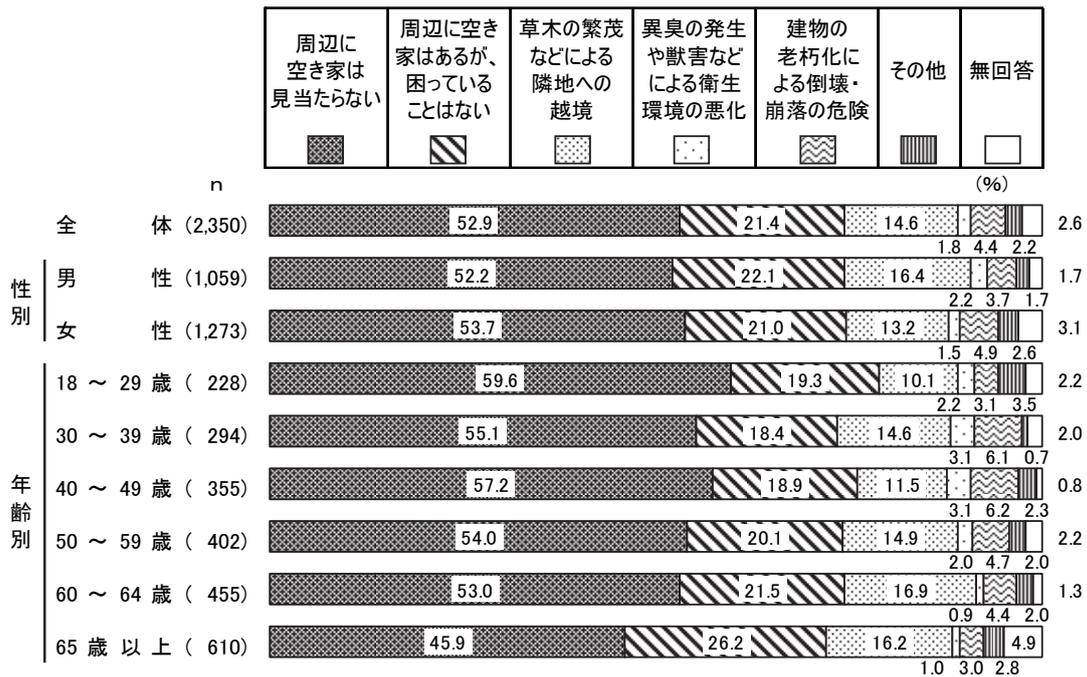
図1-10-1 空き家で一番困っていることー全体、経年比較



空き家で一番困っていることを聞いたところ、「周辺に空き家はあるが、困っていることはない」(21.4%)は2割強となっている。一方、困っていることのある中では、「草木の繁茂などによる隣地への越境」(14.6%)が1割台半ばで最も多く、次いで「建物の老朽化による倒壊・崩落の危険」(4.4%)、「異臭の発生や獣害などによる衛生環境の悪化」(1.8%)の順となっている。また、「周辺に空き家は見当たらない」(52.9%)は5割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「周辺に空き家は見当たらない」は令和5年(2023年)(49.8%)より3.1ポイント、「草木の繁茂などによる隣地への越境」は令和5年(2023年)(12.5%)より2.1ポイント、それぞれ増加している。(図1-10-1)

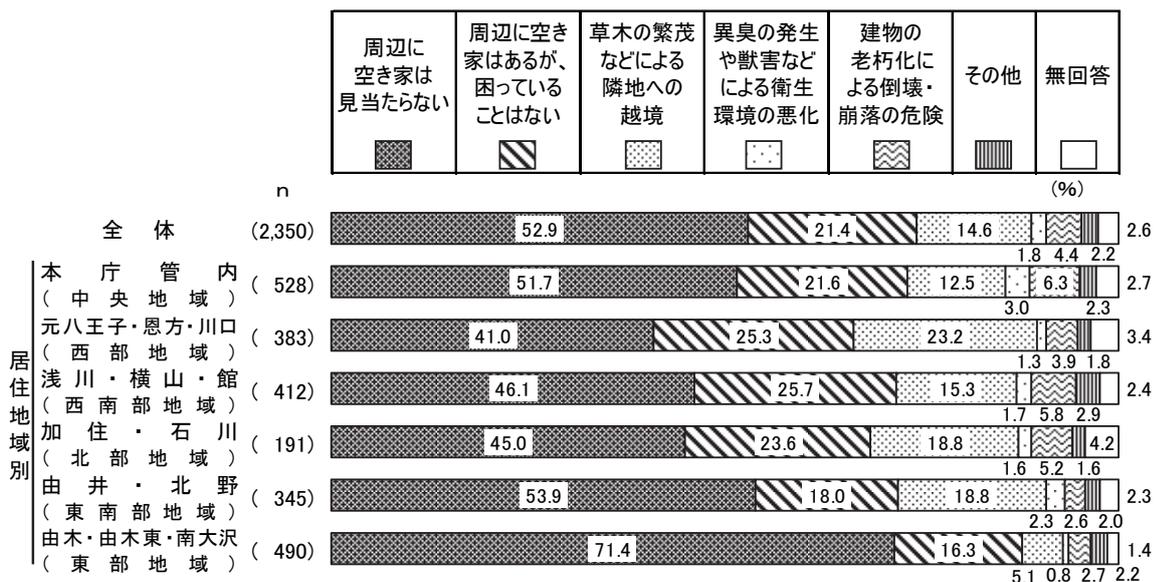
図 1-10-2 空き家で一番困っていること-性別、年齢別



性別にみると、「草木の繁茂などによる隣地への越境」は男性（16.4%）が女性（13.2%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は18~29歳（59.6%）で6割弱と多くなっている。「周辺に空き家はあるが、困っていることはない」は65歳以上（26.2%）で3割近くと多くなっている。（図1-10-2）

図 1-10-3 空き家で一番困っていること-居住地域別



居住地域別にみると、「周辺に空き家は見当たらない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（71.4%）で7割強と多くなっている。「草木の繁茂などによる隣地への越境」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（23.2%）で2割強と多くなっている。（図1-10-3）

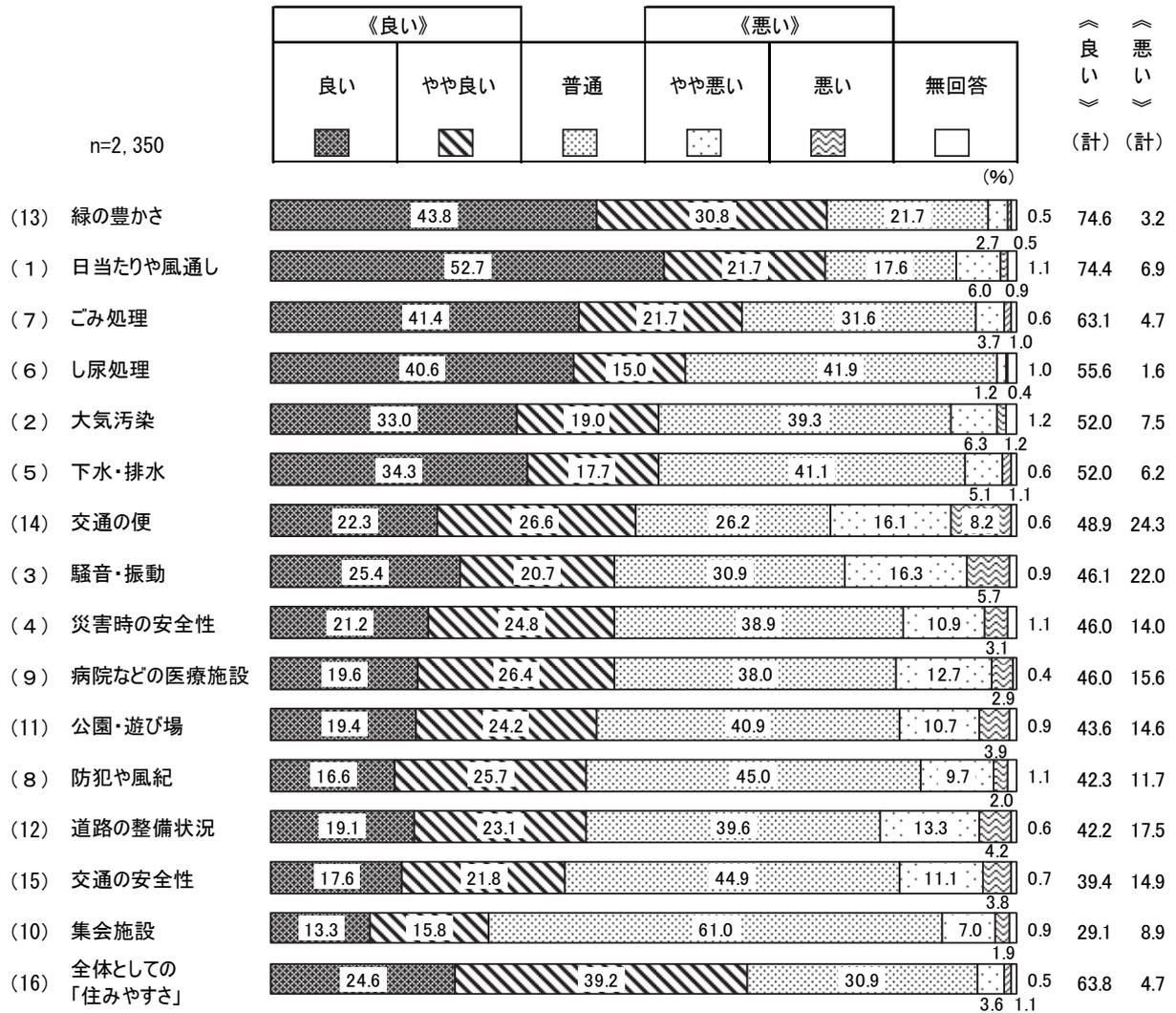
(11) 生活環境の評価

◇《良い》は(13) 緑の豊かさ、(1) 日当たりや風通しが7割台半ば

問9 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つつ)

図1-11-1 生活環境の評価—全体



(注) (16) 全体としての「住みやすさ」を除き、「良い」と「やや良い」を合算し、比率の高い順に並べた。

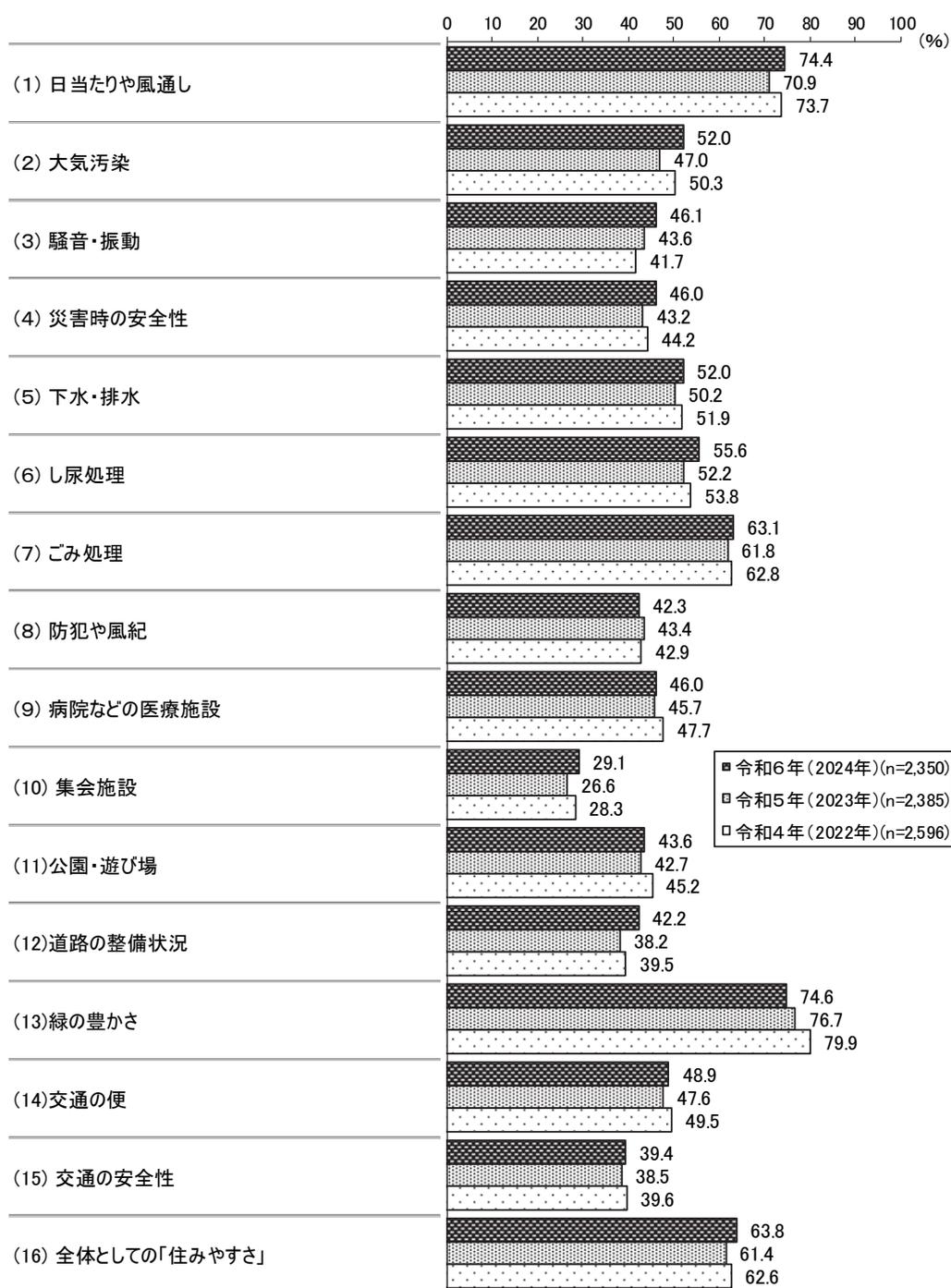
周囲の生活環境について日頃どのように感じているか聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、(13) 緑の豊かさ(74.6%)が7割台半ばで最も多くなっている。次いで(1) 日当たりや風通し(74.4%)、(7) ごみ処理(63.1%)などの順で上位となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、(14) 交通の便(24.3%)が2割台半ばで最も多く、次いで(3) 騒音・振動(22.0%)などの順となっている。

また、(16) 全体としての「住みやすさ」は、《良い》(63.8%)が6割強となっている。

(図1-11-1)

図 1-11-2 生活環境の評価—経年比較（「良い」＋「やや良い」）



「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》について前回までの調査と比較すると、令和5年(2023年)より、(2) 大気汚染で5.0ポイント、(12) 道路の整備状況で4.0ポイント、(1) 日当たりや風通しで3.5ポイント、(6) し尿処理で3.4ポイント、それぞれ増加している。

(図 1-11-2)

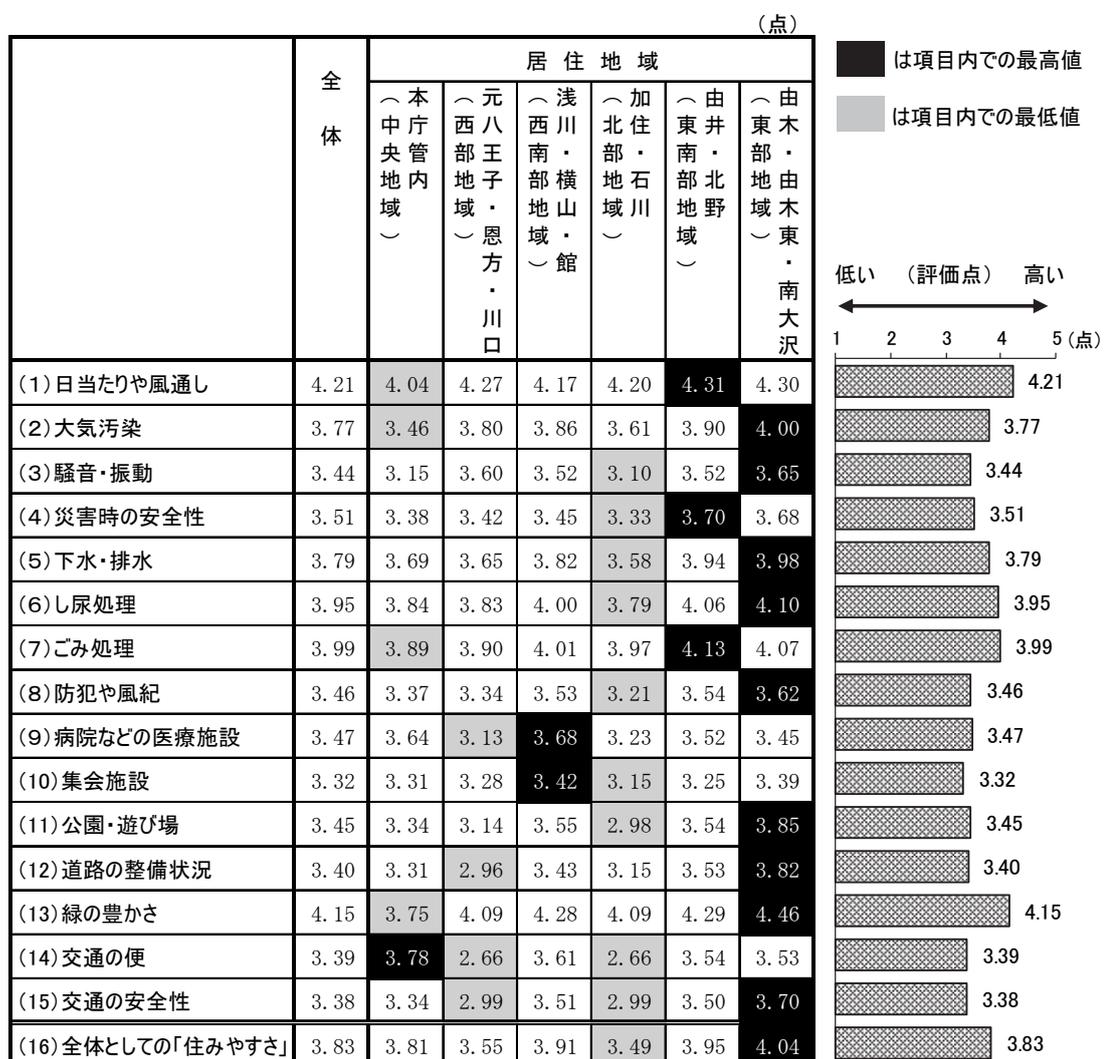
加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、1.00点に近くなるほど評価が低くなる。

図1-11-3 生活環境の評価—加重平均



以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上 位】

日当たりや風通し
 緑の豊かさ
 ごみ処理
 し尿処理
 下水・排水

(4.21点)
 (4.15点)
 (3.99点)
 (3.95点)
 (3.79点)

【下 位】

集会施設
 交通の安全性
 交通の便
 道路の整備状況
 騒音・振動

(3.32点)
 (3.38点)
 (3.39点)
 (3.40点)
 (3.44点)

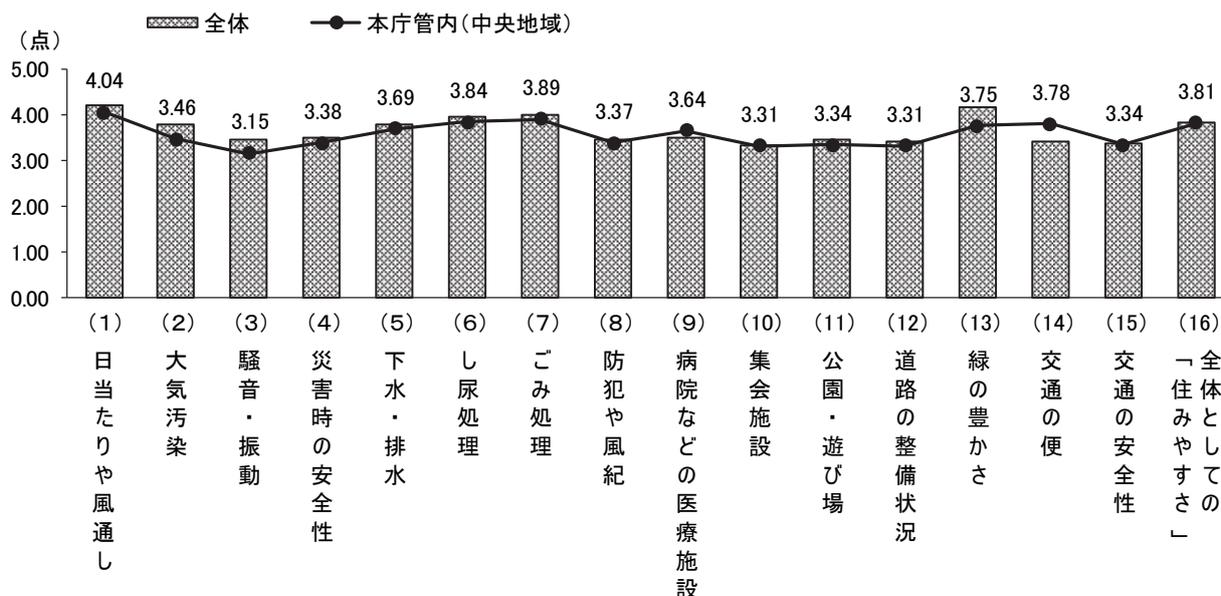
(図1-11-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは(14)交通の便(+0.39ポイント)となっている。一方、下回っているのは16項目中14項目で、最も差が大きいのは(13)緑の豊かさ(-0.40ポイント)となっている。(図1-11-4)

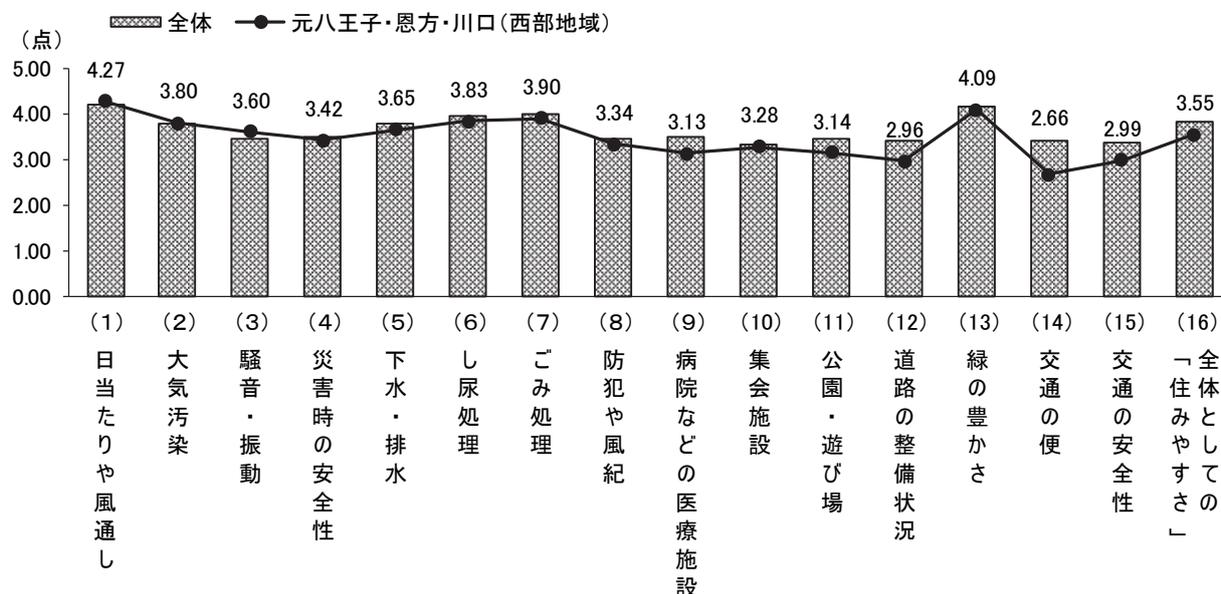
図1-11-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは(3)騒音・振動(+0.16ポイント)となっている。一方、下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは(14)交通の便(-0.73ポイント)となっている。(図1-11-5)

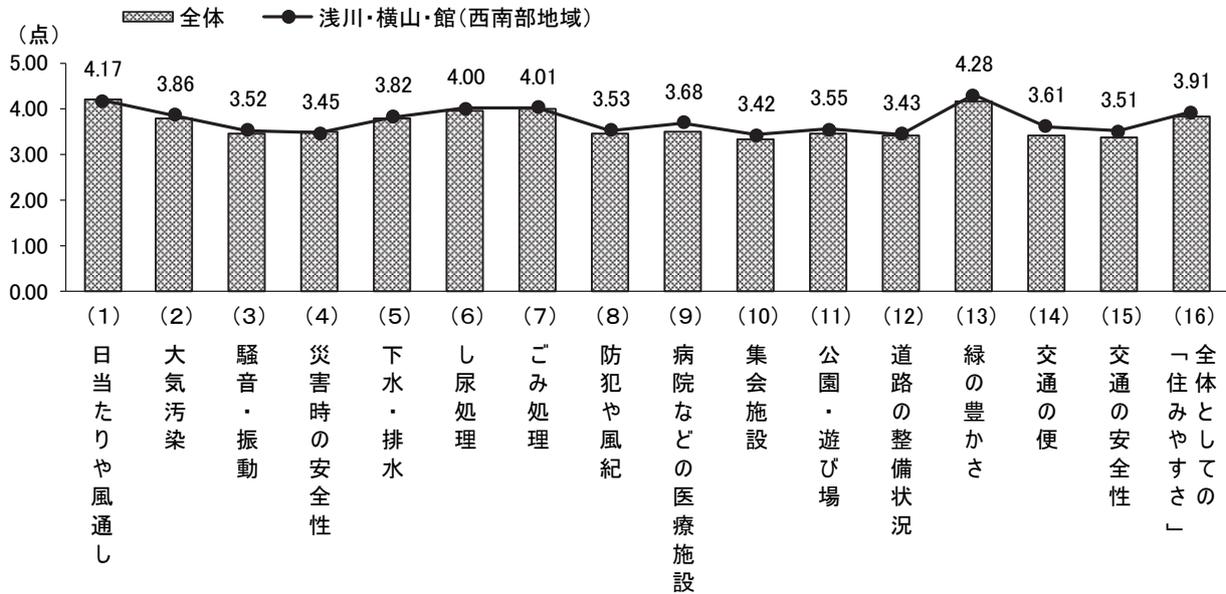
図1-11-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中14項目で、最も差が大きいのは(14)交通の便(+0.22ポイント)となっている。一方、下回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは(4)災害時の安全性(-0.06ポイント)となっている。(図1-11-6)

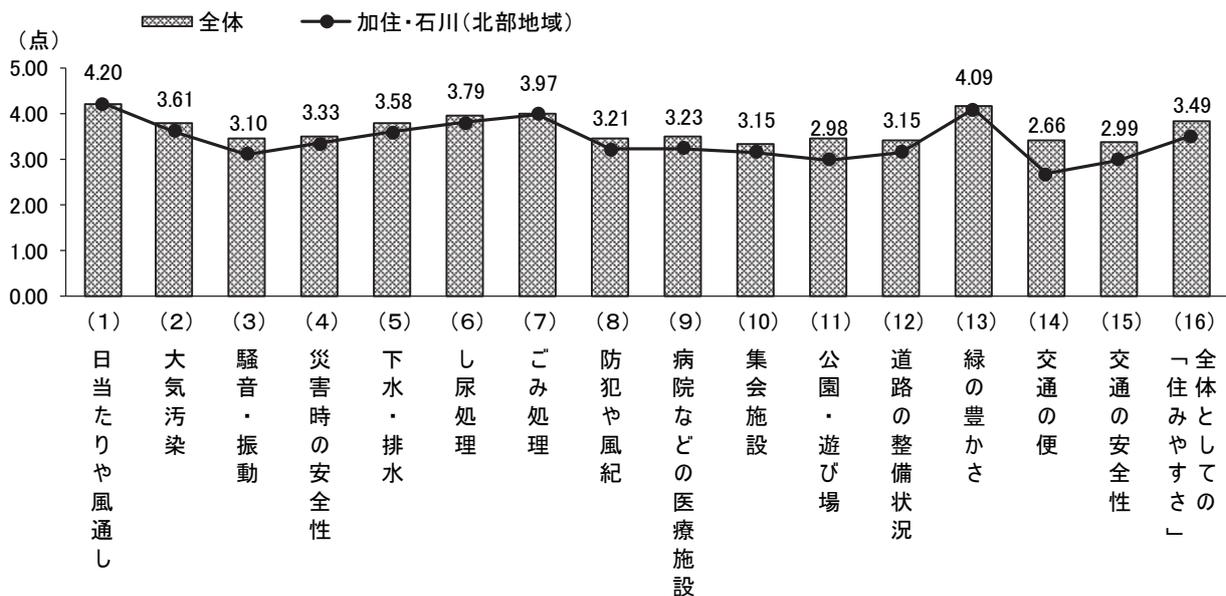
図1-11-6 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「浅川・横山・館(西南部地域)」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より16項目中16項目下回っており、最も差が大きいのは(14)交通の便(-0.73ポイント)となっている。(図1-11-7)

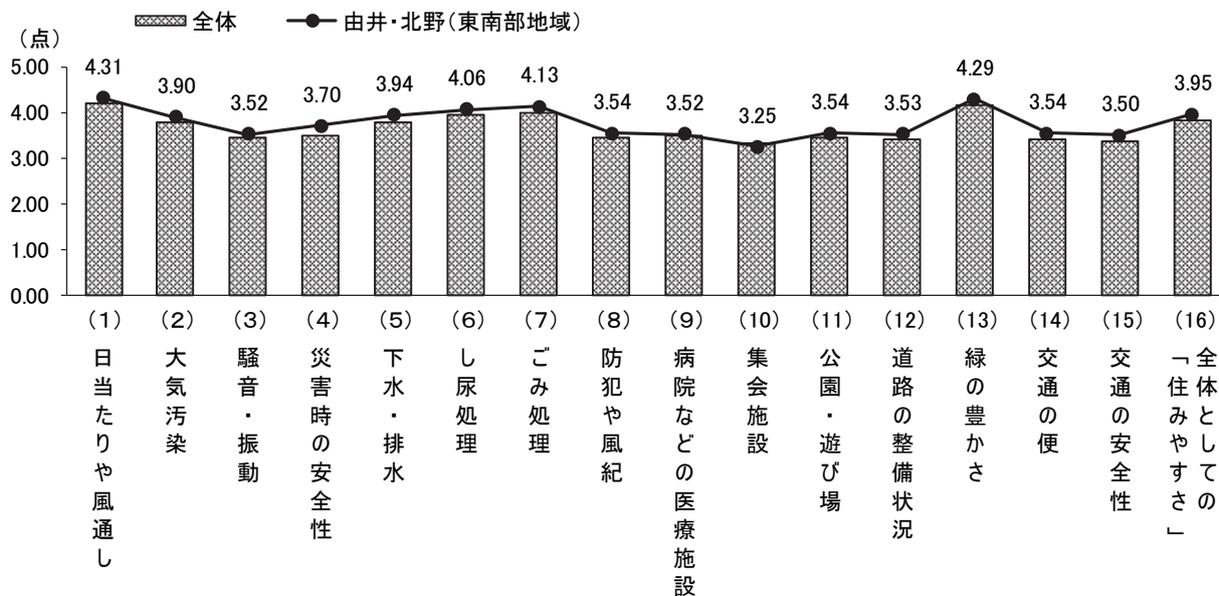
図1-11-7 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「加住・石川(北部地域)」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは 16 項目中 15 項目で、最も差が大きいのは（4）災害時の安全性（+0.19 ポイント）となっている。一方、下回っているのは 16 項目中 1 項目で、（10）集会施設（-0.07 ポイント）となっている。（図 1-11-8）

図 1-11-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは 16 項目中 15 項目で、最も差が大きいのは（12）道路の整備状況（+0.42 ポイント）となっている。一方、下回っているのは 16 項目中 1 項目で、（9）病院などの医療施設（-0.02 ポイント）となっている。（図 1-11-9）

図 1-11-9 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」

